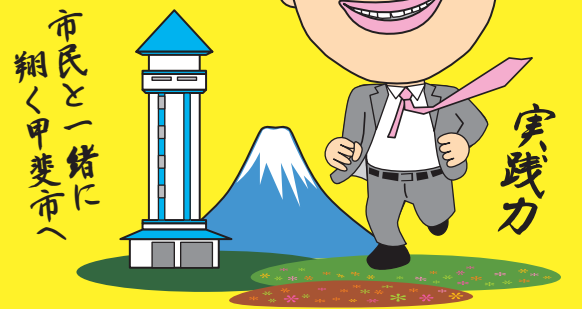


Manifesto

山梨県 甲斐市議会議員 坂本かずゆき マニフェスト 2014

5 翔く”甲斐力”プラン つの計画を提案!



1 人口増加計画

自然と都市機能を備え持った甲斐市の魅力を県内外にアピールすることによって定住化を推進

甲斐市へ定住する条件には、教育環境や土地の利便性をアピールすることが大事であると考えます。具体策として、教育環境においては、英会話ができる児童・生徒を増やす「行政による英会話教室」を充実させます。土地の利便性としては、企業誘致よりも新築して住居を構えてくれる方への「優遇税制策」などに取り組んでいきます。

2 再発見計画

甲斐市の昔ながらの特産品である「やはたいも」「桑の実」や特産品になりつつある市内に点在する名産・逸品を掘り起こし、竜王駅を拠点にブランド化を推進

「赤坂トマト」「芋焼酎 大弐」の販売促進を考えた時に、それを単体で売ってはいは限界があります。すべてを一同に吟味できる場所が必要であると考えます。具体策としては、竜王駅仙峡口に調理の専門学校などを誘致し、地元の農林高校などと協力・提携して甲斐市で採れた物を使って商品開発し、道の駅ならぬ「駅の駅」を作り、買い物ができるようなモールを作って販売することを研究していきます。

3 市民提案型 住民自治計画

市からの補助金で、自治会の特色が生かせるような市民のアイデアを事業化できる自治会裁量権の推進

市からは、自治体にその規模に応じて補助金が還付される仕組みがありますが、これは、いわゆる「ひも付き予算」と言って、その予算の使い道は決まっています。実際に自治会が使えるお金は補助金では賅いきれず、自治会費を住民のみさんから税金とは別に納めていただいているのが現状です。そこで具体策として、使い道が決まっている補助金ではなく、私の自治会では、今年度、住民からこういう事業(例えば、公民館の改築)をやりたいという提案がなされたら、自治会と行政の間で折衝を行い、予算化してもらい、それを補助金として還付されるようなルール作りを研究していきます。

4 GISを用いた 総合政策計画

これからは事業の選択と集中によって総合政策を決定していかなければならない。そのためのツールとしてGIS機能の利用の推進

少子高齢化が進み、人口の減少が叫ばれる中、あれやこれやと事業をやっている、厳しい財政が破たんしかねません。そこで、先を見越した政策を立てる上で、GIS(地理情報システム)機能を利用することで人口動向などを多角的に捉えることができ、将来の総合政策を策定できると考えます。具体策としては、ある地域で20年後に一人暮らしの方ばかりの地区が生まれてしまうと、そこに保育園などを作っても意味がなく、むしろ、介護の短期ショートステイのような施設を作るほうが賢明だということが地図上から見ることができます。また、ゲリラ豪雨などの災害時に、どこに災害弱者が住んでいるかがひと目でわかり、その近くに住んでいる職員を瞬時に派遣することができるようになるなど、GIS機能を用いた政策作りを研究していきます。

5 議員・議会改革計画

議員通信簿によって議員の質の向上と市民の声を聞く議員報告会の開催の推進

議員は当選したら議員活動という仕事をする権利を与えられ、市民の負託を受けたのだから「議員という仕事＝政策提言」をしなければ議員の価値はないと考えます。市民の声に耳を傾けて議場で発言し、行政と議論し、事業化して予算付けし、市民に還元するサイクルを作ることによって、初めて議員と呼ばれなければいけないと考えています。現状では、市の予算は執行側ですべて予算立てされ、議員は適正かどうかチェックするだけに終わってしまっています。具体策として、決算の後、会派毎に報告会を開いて、市民の声を聞き、審議して、来年度予算に反映させるようなシステム作りを検討していきます。

※ご意見・ご提言がございましたら、お気軽にご連絡をお願いいたします。